

伊賀流自治の視点

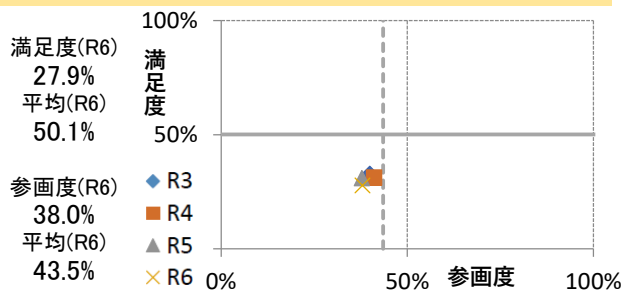
【主担当部局】

建設部

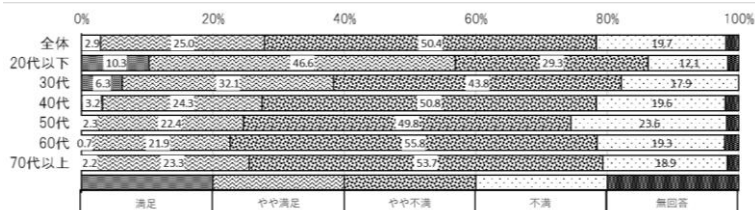
- ・地域と協働し制度化した土地利用条例(土地利用基本計画)に基づき、適正な土地利用管理に努めます。
- ・景観に関する市民意識の高揚を図ります。

【PLAN】		【DO】	【CHECK①】						
基本事業		2024(R6)年度の事務事業	KPI(成果指標)						
1	コンパクトシティ・プラス・ネットワーク 上野市街地とその周辺を広域拠点とし、交通結節点や各地域の日常生活の中心拠点を公共交通等で結ぶ「多核連携型の都市構成」をめざすために策定した土地利用基本計画や立地適正化計画の適正な運用に努めます。	○一般事務経費 ○都市計画調査策定等事業	成果指標	誘導区域内への誘導率					
			成果指標の説明	立地適正化計画に基づく誘導区域内への対象施設誘導率 誘導対象施設における 誘導区域内立地件数／都市計画区域内立地件数					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(%)	59.46	85.71	64.71	69.23	50.00	上昇
2	良好な景観形成 自然風景や城下町の伝統・風格を活かした魅力ある景観形成をめざすために、関係各所との調整を行い、うえのまち風景づくり協議会の再開をめざします。 都市施設の整備や老朽化施設の維持補修や更新については、緊急度・重要度の高い施設から順次整備します。	○市街地整備推進事業費 ○街なみ環境整備事業 ○公園施設維持管理経費 ○公園施設更新事業	成果指標	届出書の適合率					
			成果指標の説明	景観計画区域内における 届出行為の景観形成基準への適合件数／届出件数					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(%)	85.50	88.33	79.72	82.35	82.5	上昇
3			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
			実績()						
4			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
			実績()						

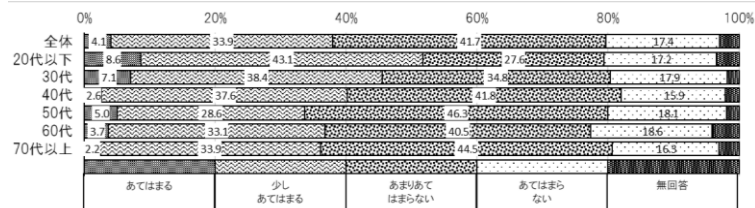
まちづくりアンケート調査結果



満足度(R6)



参画度(R6)



【CHECK②】

効果検証

【事業の進捗】取り組み状況

【ACTION】事務事業の改善案

1	効果が出ている点	・立地適正化計画の対象区域は都市計画区域に設定されており、ここに「居住誘導区域」と「都市機能誘導区域」を設けることで、住宅や生活サービス施設の誘導を行っている。 ・計画策定後の対象施設における誘導率の累計は約60%に達しており、これにより一定の効果が確認されている。 ※単年度ごとの成果指標数値については、年度ごとの立地件数に差異があるため、成果指標数値にも変動が見られる。	計画通り進めている
	課題	・高密度でコンパクトなまちづくりと公共交通等とが組み合わせられ、将来的に持続可能な都市構成とすることが求められている。 ・立地適正化計画は緩やかなコンパクト化を目指すものであり、今後も効果的な誘導を促進するために、評価と改善を継続する必要がある。 ・地域特性に応じた個性を活かしながら、多様な連携と交流によって市域全体を一体の都市として、土地利用を総合的にコントロールする必要がある。	・今後の事業運営において、更なる誘導率の向上を図るため、当面の間、計画策定後の累計誘導率を6割強として維持することが重要である。 ・令和6年度においては、立地適正化計画の内容と目的を広く周知するため、計画概要説明動画をYouTubeチャンネルにて公開した。これに続き、令和7年度には、伊賀市立地適正化計画に関する専用動画を新たにアップロードし、誘導率の維持および向上に向けた周知活動を強化していく予定。 - 今後も継続的に市民の皆様に対して情報提供を行い、計画の理解促進に努めることで、誘導率の向上を実現していく。
2	効果が出ている点	・「うえのまち風景づくり協議会」の開催を重ね、城下町の景観保全・形成に関する情報を共有することで、魅力ある景観形成に向けての理解が少しずつ進んでいる。 - 特に、若者会議メンバーから積極的に活動に係わる意志がある旨の返事を受け、うえのまちの良いところを知ってもらうための活動を継続して行っている。 ・「日本の20世紀遺産のまちづくり」については、庁内会議を3回開催し、次年度からそれぞれの計画が連携できる体制を構築するため、伊賀市20世紀遺産のまちづくり検討会議を設置する手続きを進めた。 ・また、市民の住環境の一部となっている公園施設等の整備についても継続して実施することで、魅力ある伊賀市につながっている。	計画通り進めている
	課題	・家屋の新・改築等において、生活様式の変化から、下水道区域外となったことによる道沿いへの合併処理浄化槽の設置や、自家用車の駐車場確保等により、景観形成基準に適合させる事は、少なからず私権を制限する事になることから、景観に関するさらなる意識の醸成を図るとともに、景観計画を見直す必要がある。	・城下町の魅力ある景観保全・形成のため、引き続きふるさと風景づくり助成金を確保して、住民の協力姿勢を促す。 ・令和7年度早期に景観計画改定業務に着手し、同年度中に新景観計画の構想案を完成させるとともに、「うえのまち風景づくり協議会」の構成やあり方を見直す。 ・伊賀市20世紀遺産のまちづくり検討会議において、まちづくりに関する情報共有を図りながら庁内連携を加速し、「日本の20世紀遺産20選」と融合した伊賀上野城下町の景観を活かしたまちづくりを進めるための検討を重ねる。 ・策定した公園施設長寿命化計画に基づき、緊急度・重要度が高い施設の更新に着手する。
3			
4			

伊賀流自治の視点

【主担当部局】

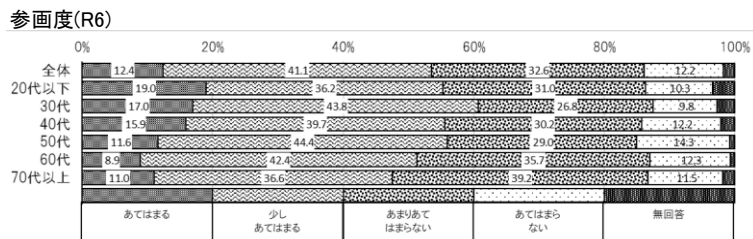
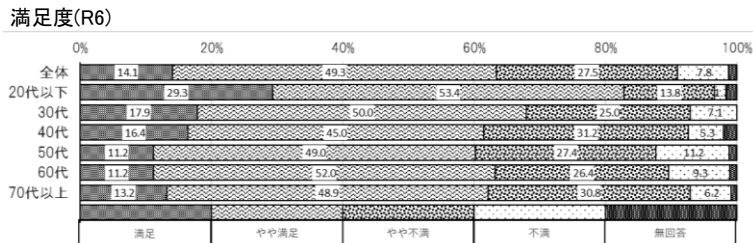
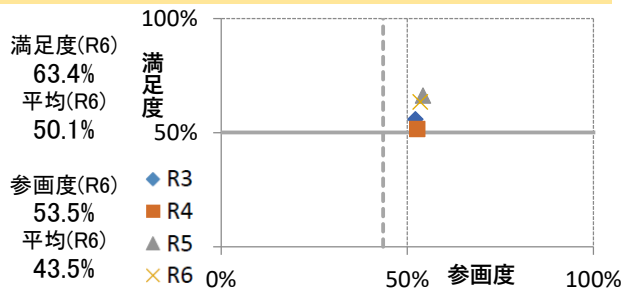
建設部

・耐震診断・耐震補強工事等の支援、市営住宅の建替・改善の促進、空き家化の予防及び空き家の利活用の推進のため、行政内部の幅広い関連部署との協議を図りながら、市民・地域団体、住宅関連事業者とともに取り組みます。

・社会経済情勢や関連計画・補助制度の見直しなど、事業への変化には迅速かつ適切に対応します。

【PLAN】		【DO】	【CHECK①】						
基本事業		2024(R6)年度の事務事業	KPI(成果指標)						
1	木造住宅等の耐震化 市民の生命や財産を守ることができる住まいの安全を確保するため、新耐震基準導入以前の既存建築物、特に倒壊の危険性の高い木造住宅の耐震診断や補強に対する支援を継続します。 耐震改修の実施にあたっては、国・県の補助制度や耐震改修工事に伴うリフォーム工事の補助制度及び市独自の上乗せ補助を実施し、診断結果から概算工事費を見積もるなど補強工事につながる取り組みを進めます。 また、庁舎ロビーにおいてパネル展を実施するなど木造住宅等の耐震化促進に広く取り組みます。	・木造住宅耐震診断等事業 ・木造住宅耐震補強設計事業 ・木造住宅耐震補強事業(耐震補強工事) ・木造住宅耐震補強事業(リフォーム工事) ・木造住宅耐震補強事業(空き家除却工事) ・ブロック塀等撤去費補助事業	成果指標	住宅の耐震化率					
			成果指標の説明	住宅土地統計調査(5年毎)に基づく耐震性のある住宅数/住宅総数					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(%)	81.8	81.8	81.8	81.8	85.1	87.8
2	市営住宅の建替・改善 市営住宅の建替・改善事業を進める上では、財政的制約などが厳しくなることから、国の交付金事業を活用した建替・改善事業による推進、民間の技術力・資金力・経営能力を活かしたPFI事業の推進など、市営住宅事業全体のマネジメントの強化を図ります。	社会資本総合整備事業 ・住宅地区改良事業等改良住宅ストック総合改善事業 (改良住宅上之丘団地6号棟屋上防水工事) ・公営住宅等ストック総合改善事業 (市営住宅木根団地T2号棟屋上防水工事)	成果指標	市営住宅の改善事業の累計					
			成果指標の説明	伊賀市市営住宅等長寿命化計画に基づき、国の交付金事業を活用して市営住宅を改善した棟数(累計)					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(累計)
			実績(件)	2	4	6	8	9	10
3	空き家対策 空き家を地域資源と捉え、空き家バンク事業を充実させ積極的な移住促進を進めます。また古民家再生活用指針に基づき、官民連携して空き家となった古民家(歴史的建築物等)の再生活用に取り組みます。 地域住民の生活環境を保全するため、空き家の所有者等に対し適正管理を促すとともに、適切な管理が行われていない特定空家の所有者等には法律に基づく措置を講じます。	・空き家バンク事業 ・空き家対策総合支援事業 ・古民家等再生活用事業 ・法に基づく「管理不全空家・特定空家」に関する指定及び措置 ・空き家を増やさないための地域連携事業等 ・空き家活用促進区域指定に向けた検討	成果指標	空き家等数					
			成果指標の説明	空き家の利活用の推進により、増加する空き家の率を制御する。					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(棟)	2,052	2,075	2,086	2,105	2,184	2,050
4			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(棟)						

まちづくりアンケート調査結果



傾向 満足度・参画度ともに平均を上回っている。
20代以下の満足度が高い。

【CHECK②】

効果検証		【事業の進捗】取り組み状況
【ACTION】事務事業の改善案		
1	効果が出ている点	計画通り進めている
	課題	・耐震診断から耐震補強工事への移行割合が少ない理由として、耐震補強工事のコストの所有者負担が大きくなることが挙げられるが、令和7年度より精密診断法による耐震補強設計事業の上乗せ補助を導入することで、耐震補強工事費の抑制による実施件数の増加が期待できる。
2	効果が出ている点	計画通り進めている
	課題	【改善対象】 ・国の交付金事業を活用して引き続き市営住宅の屋上防水工事に取り組む。 【建替対象】 ・公共施設最適化計画及び公営住宅等長寿命化計画と整合した「市営住宅整備・管理方針」を策定し、今後の建替手法を検討する。 【用途廃止対象】 ・用途廃止実行計画に基づき、用途廃止対象住宅の入居者や親族と面談等を行い、入居者移転と市営住宅の解体を順次進める。
3	効果が出ている点	やや遅れている
	課題	○新規・拡大事業 ・空き家バンク登録物件の増高に向けて、課題となっている家財処分に対する補助金を新設したり、バンクHP掲載の条件であるすべて家財の処分について一定緩和を行ったりすることで、流通の強化を図る。 ・今後増加の見込みである、所有者不明建物に関しては、司法書士会及び土地家屋調査士会が法務局から「所有者不明探索委員」の委嘱を受けており、そこ連携して対応を行う。 ・財産管理人制度の活用を行い特定空き家の解消につなげる。 ・地域との連携を強化するため、空き家の判断基準等について誰でも理解できる簡単なマニュアルを作成することで空き家把握の標準化を行う。 ※標準化を行うことで、空き家の数の把握をより正確性の高いものにする。 ・HOTEL事業では、新たに2棟増設を行い古民家の活用による街並み保存と誘客促進等を行う。 ○継続事業 ・空き家対策総合支援事業に伴う管理不全、特定空家に対する継続的な指導などを行う。
4		

伊賀流自治の視点

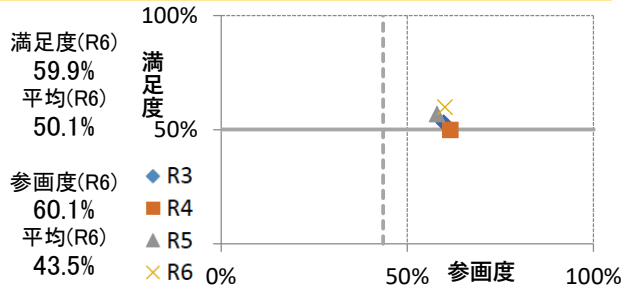
【主担当部局】

建設部

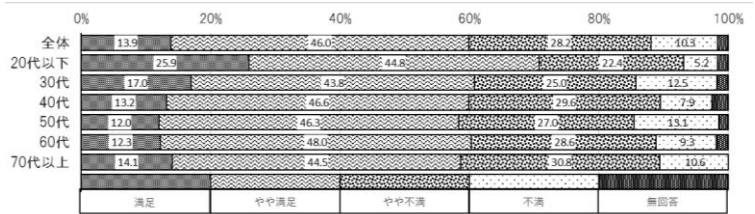
・観光道路、緊急道路、生活道路等の道路分類を行い、重要度や優先順位を的確に判断し、住民のニーズとのバランスをとりながら、安全・安心でスムーズな通行が可能な道路、橋梁の維持、改良を行います。

【PLAN】		【DO】	【CHECK①】						
基本事業		2024(R6)年度の事務事業	KPI(成果指標)						
1	道路 工事コスト縮減に努め、重要度や優先順位を的確に判断し、住民のニーズとのバランスをとりながら道路整備の進捗を図ります。	西明寺緑ヶ丘線道路改良事業 道路改良工事を実施し、完成した。 依那古友生線他1線道路改良事業 道路改良工事を実施し、完成した。	成果指標	道路改良事業 進捗率					
			成果指標の説明	社会資本整備総合交付金事業において実施している道路改良工事5路線の事業費ベースでの整備進捗率					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(累計)
			実績(%)	71.20	90.1	95.5	99.0	100	100
2	橋梁 橋梁長寿命化修繕計画に基づき、橋梁点検等を実施し、緊急を要する損傷、劣化等が見受けられる橋を重点的に修繕し、コスト縮減及び安全・安心な道路空間の整備を図ります。	橋梁長寿命化修繕事業 印代山神線(山神橋)橋梁架替事業 ※R6年度は、小切橋外2橋の橋梁修繕を行った。	成果指標	橋梁 修繕率					
			成果指標の説明	橋梁長寿命化修繕計画に基づき、橋梁修繕工事を行う必要のある判定Ⅲ橋梁134橋についての修繕率					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(累計)
			実績(%)	20.9(28橋)	58.2(23橋)	69.4(15橋)	84.3(20橋)	86.5(3橋)	100
3			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
			実績()						
4			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
			実績()						

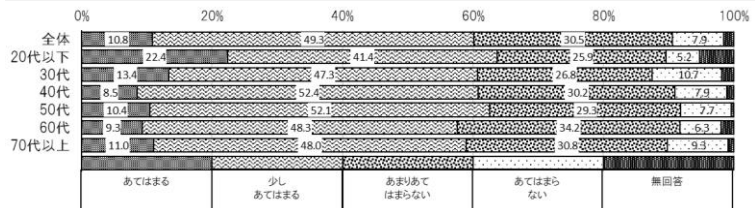
まちづくりアンケート調査結果



満足度(R6)



参画度(R6)



傾向 満足度・参画度ともに平均を上回っている。
満足度は上昇傾向にある。

【CHECK②】

効果検証

1	効果が出ている点	・国庫補助の補正予算等も活用し予算を確保するとともに、現場を詳細に精査しコスト縮減に努め、計画通りの進捗を図れている。
	課題	・道路の効果的な整備や持続可能な維持管理を続けるには、地域と連携し、計画的な修繕や整備を行うことが必要。
2	効果が出ている点	・定期的に橋梁点検を行い、事前に損傷等を把握し計画的に修繕を行うことにより、橋梁の長寿命化を可能にし、長期的な視点でのコスト縮減が図れている。
	課題	・市内で1500橋を超える橋梁を管理しており、老朽化が進んでいる。すべての橋を管理していくことは難しいため、橋の集約や撤去が必要となる。
3		
4		

【事業の進捗】取り組み状況

【ACTION】事務事業の改善案

計画通り進めている
・道路の重要度や路面の劣化状態などから整備の優先度を的確に判断し、地域住民のニーズとのバランスを取りながら、より効果的な整備ができるよう計画的に事業を進めていく。 継続的に事業を進められるよう、工事のコスト縮減に取り組む。
やや遅れている
・事業規模の大きな山神橋架け替え工事を実施しているため、修繕数が伸びずKPIの実績値はやや遅れているものの、計画的に予算を確保し、積極的に事業を進めている。今後も、橋梁の長寿命化修繕計画に基づき、効果的にメンテナンスを行っていく。また、橋梁の集約や撤去に向け、地域との協議を進めていく。

伊賀流自治の視点

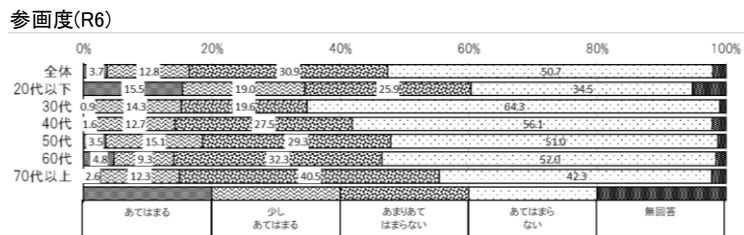
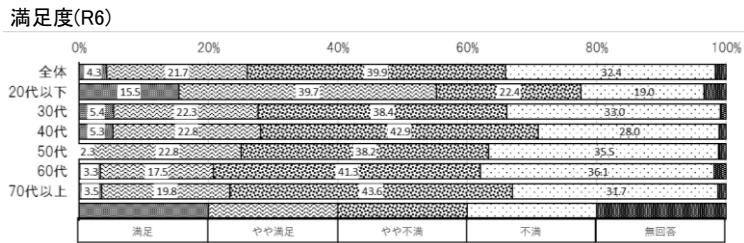
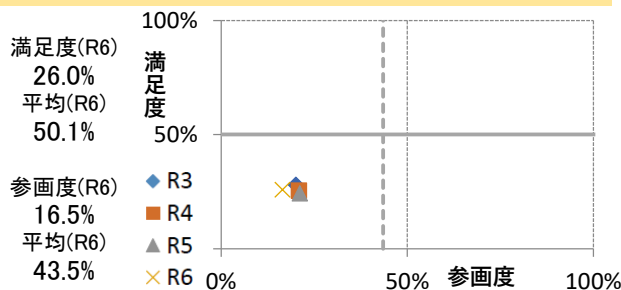
【主担当部局】

地域力創造部

- ・伊賀市地域公共交通計画に基づき、バスや鉄道などの公共交通機関が、市民の移動手段として確保維持、活性化できるよう、交通サービスの提供、利用促進等に交通事業者や地域とともに取り組みます。
- ・公共交通を取り巻く環境や住民ニーズの変化に迅速かつ適切に対応します。
- ・誰もが安全で円滑かつ快適に移動することができるよう、交通事業者等と連携協力し施設の整備その他必要な措置を講ずるものとします。

【PLAN】		【DO】	【CHECK①】						
基本事業		2024(R6)年度の事務事業	KPI(成果指標)						
1	地域バス交通の確保維持 すべての人が安全・安心かつ公平に移動できるよう、交通事業者や地域と連携し安定的で持続可能な交通サービスの提供により、市民の生活交通の確保に努めます。市が運行に関わるバス事業については、利用促進を図りつつ、利用実態やニーズに合わせ、より効率的な運行とすべく、見直しを行います。 地域運行バスは、導入地域以外も地域の主体的な取り組みが促進されるよう、支援制度の活用を含めサポートしていきます。	○行政バス運行事業 ・行政バスに関しては、伊賀市地域公共交通活性化再生協議会地域部会(支所単位)での意見交換や市内運行事業者への聞き取りなどを実施し、運行の課題を把握したうえで、島ヶ原地域での運行形態の見直しを進め、令和5年度中にデマンド方式による実証運行を開始する見込みである。 ○地方バス路線運行事業 ・地域部会で、路線バスや廃止代替バスの厳しい運営状況を報告し、廃止代替バス沿線住民自治協議会に対し直近の運行成績を配布した。廃止代替路線沿線の3つの住民自治協議会で、バス交通に関しての状況や今後の意向等についての意見交換を行った。 ○地域交通対策事業 ・地域運行バスを検討する地域と協議を行ったほか、自治協議会単位でのバス事業に係る説明会を進める。	成果指標	市内バス年間利用者数					
			成果指標の説明	安定的で持続可能な交通サービスの提供に向けた取り組みの効果を測るための指標。 事業者運行バス、廃止代替路線バス、行政サービス巡回車及び地域運行バスの年間利用者数					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(人)	503,269	350,646	367,251	369,619	360,028	503,000
2	鉄道網整備 JR関西本線亀山加茂間及びJR草津線は、ともに交通系ICカード利用可能エリアとなったことを機に、まちづくり施策との連動により、沿線住民等への利用促進策やインバウンド旅行者への対応等新たな需要の喚起、バリアフリー化等駅設備の改善等利便性の維持向上や新たな近代化整備の手法検討について、関係自治体や整備促進団体、鉄道事業者等と連携しながら取り組みます。 近鉄大阪線は、運行本数の維持や伊賀線との接続改善等利便性確保のため、鉄道事業者への働きかけと連携協力に努めます。	○関西本線電化促進事業 ・関西本線木津亀山間活性化同盟会や関西本線利用促進と電化を進める会の利用促進活動によるウォーキングイベントを実施している。関西本線の利便性の向上及び存続に向け、JRや国に対する要望書の提出を行った。 ○鉄道網整備促進事業 ・駅利用者の利便性向上のため、地元団体による駅業務を行う。 ・利便性確保のため要望した、関西本線と伊賀線の相互乗り入れについて、JR西日本と伊賀鉄道により検討を行っている。	成果指標	関西本線年間利用者数					
			成果指標の説明	市内JR線及び近鉄線の利便性向上並びに整備促進に向けた取り組みの効果を測るための指標。 JR関西本線・草津線及び近鉄大阪線の市内各駅年間利用者数					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(人)	1,458,143	1,077,350	1,291,359	1,397,256	1,409,833	1,458,000
3	伊賀線活性化 伊賀線を永続的に維持していくため、市が主体となって取り組むことにより、長く安心・安全かつ安定的に事業を継続できる体制を維持します。 そのために、市は、伊賀線をまちづくりに活かすとともに、鉄道施設等を適切に維持管理し、第二種鉄道事業者である伊賀鉄道株式会社と連携し経営改善に取り組み、その運営を支援します。また、新たな需要の掘り起こしや、通勤・通学利用を増加させるための施策を、市民や地域の各主体と連携して実施することにより、伊賀線を守り育てるマイルール意識の醸成を図ります。	○伊賀線活性化事業 ・伊賀線全線開通100周年記念事業による「伊賀線まつり」等のイベントを活用し、伊賀鉄道の魅力や必要性を広く発信した。 ・利便性向上のためICカード設備の導入を進める。 ・継続的な運営体制づくりのため、伊賀鉄道株式会社の人件費削減の取組として、自社運転手の募集を本年度より実施した。 ・有利な財源を確保し、電力料高騰対策助成金を創設した。 ・今後の伊賀鉄道の運営に関し、伊賀鉄道・近鉄・市の3者での協議を開始した。	成果指標	伊賀線年間利用者数					
			成果指標の説明	鉄道事業を安全かつ安定的に維持継続する取り組みの効果を測るための指標。 伊賀線全線の年間利用者数					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(人)	1,279,625	1,039,153	1,161,497	1,117,983	1,163,669	1,580,000
4			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(人)						

まちづくりアンケート調査結果



- 傾向
- ①満足度・参画度が平均と比べて、ともに低い。
 - ②満足度・参画度ともに横ばい傾向にある。
 - ③満足度・参画度ともに20代以下が高い。

【CHECK②】

効果検証

【事業の進捗】取り組み状況

【ACTION】事務事業の改善案

効果検証		【ACTION】事務事業の改善案
1	効果が出ている点	計画通り進めている ○新規事業 ・夜間の交通手段の確保のため、上野市駅前に夜間のタクシー実証運行を行う。 ・次期公共交通計画の策定 ○既存事業 ・デマンド運行の実証運行により必要な運行内容の見直しを実施し、本格運行に向けた運行形態を構築する。 ○廃止・縮小事業 ・交通空白地域の地域運行バス等の普及による、廃止代替路線の縮小・廃止に向けた検討。地域運行バス等への参画要件の緩和の検討や支援方法の強化。
	課題	
2	効果が出ている点	計画通り進めている ○新規事業 ・大阪関西万博を契機とした関西方面からの誘客促進を図る ・府県(三重県、京都府、滋賀県)を跨いだ広域的な取り組み ・沿線住民自治協議会と連携した利用促進の取り組み ○既存事業 ・ウォーキングイベントなどの充実 ・関西本線活性化利用促進三重県会議での利用促進に係る協議の充実
	課題	
3	効果が出ている点	やや遅れている ○新規事業 ・次期鉄道事業再構築実施計画の策定 ・茅町駅トイレ解体新築と駅前整備 ・市部ゆめが丘間のシャトルバス実証運行 ・地域おこし協力隊の導入による利用促進活動 ・桑町駅ベンチの改修 ○既存事業 ・再構築実施計画に掲げる利用促進施策の継続的な取り組みと進捗管理 ・JR西日本や近鉄との連携強化
	課題	
4	効果が出ている点	
	課題	